

2026 年度第 1 回 にいがた摂食嚥下障害サポート研究会講演会

【日 時】

2026 年 5 月 30 日（土）13：00－17：00 （予定）

【場 所】

有壬記念館，ZOOM による配信のハイブリッド開催

【タイムスケジュール】

12:00 受付開始

12:30 総会（会員のみ）

13:00 開会挨拶 （井上会長）

13:05 **講演 1 「早期介入が未来を変える**

—集中治療からつなぐ摂食嚥下リハビリテーションと臨床研究—

座長 辻村恭憲先生（新潟大学大学院医歯保健学研究科 摂食嚥下リハビリテーション学分野）

講師 兼岡麻子先生（東京大学医学部附属病院リハビリテーション部）

13:55 **講演 2 「公立藤田総合病院における摂食嚥下診療**

— 簡便な舌接触補助床（PAP）製作を通じた食支援 —

座長 小貫和佳奈先生（新潟大学医歯学総合病院 摂食嚥下機能回復部）

講師 鈴木 拓先生（あさひ歯科医院）

14:45 **企業紹介**

15:15 **講演 3 「嚥下障害者家族の介護負担—私たちは家族をどのように支援していくべきか」**

座長 吉原 翠先生（新潟大学大学院医歯保健学研究科 摂食嚥下リハビリテーション学分野）

講師 中尾真理先生（名古屋市立大学 リハビリテーション医学分野）

16:05 **講演 4 「嚥下調整食の診療報酬収載」**

座長 井上 誠先生（新潟大学大学院医歯保健学研究科 摂食嚥下リハビリテーション学分野）

講師 藤谷順子先生（国立国際医療センター リハビリテーション科）

16:55 閉会挨拶 （張替副会長）

17:15 （希望者）**ワンコインカフェ**

講演1 早期介入が未来を変える

—集中治療からつなぐ摂食嚥下リハビリテーションと臨床研究

兼岡 麻子 (かねおか あさこ) 先生
(東京大学医学部附属病院リハビリテーション部/摂食嚥下センター, 言語聴覚士)

<抄録>

本講演では、集中治療における摂食嚥下リハビリテーションについて、乳幼児の哺乳から成人の摂食訓練までを対象とした実践をご紹介します。集中治療に携わるスタッフのみならず、急性期・回復期・生活期に関わるメディカルスタッフにとっても、治療過程と支援の連続性を捉える視点をご提示します。さらに、日常臨床から発展する嚥下研究の実際について、嚥下に関わるメディカルスタッフの皆様も取り組めるような方法をご提案します。

<ご略歴>

2000年国立障害者リハビリテーションセンター学院卒業後、小児領域の臨床を経て、2005年より新潟大学医歯学総合病院、2009年より東京大学医学部附属病院に勤務。2011年ボストン大学大学院留学、修士・博士課程修了。復職後、2020年よりリハビリテーション部言語聴覚療法主任、2021年より摂食嚥下センター副センター長、2026年よりリハビリテーション部副技師長。

講演2 公立藤田総合病院における摂食嚥下診療

— 簡便な舌接触補助床 (PAP) 製作を通じた食支援 —

鈴木 拓 (すずき たく) 先生
(あさひ歯科医院/公立藤田総合病院 歯科口腔外科, 歯科医師)

<抄録>

公立藤田総合病院では、歯科および耳鼻咽喉科を中心に多職種が協働し、嚥下診療を行っています。当科では、摂食嚥下障害患者に有効とされる舌接触補助床 (PAP) について、「まず作製してみる」という方針のもと、マウスガード用シートを用いた簡便な製作法を導入しています。本発表では、その製作方法および使用例を提示するとともに、本製作法の導入に伴う運用上の工夫を紹介し、これらの取り組みを通じた食支援における歯科の関わりについて報告します。

<ご略歴>

2014年 新潟大学歯学部 卒業
2015年 新潟大学医歯学総合病院 口腔リハビリテーション科
2018年 新潟大学大学院医歯学総合研究科 (口腔生命科学専攻) 修了 (博士 (歯学))
南魚沼市民病院 歯科口腔外科
2021年 新潟大学医歯学総合病院 摂食嚥下機能回復部 助教
2023年 あさひ歯科医院
公立藤田総合病院 歯科口腔外科
2025年 新潟大学医歯学総合研究科 摂食嚥下リハビリテーション学分野 非常勤講師

講演3 嚥下障害者家族の介護負担—私たちは家族をどのように支援していくべきか

中尾 真理（なかおまり）先生

（名古屋市立大学大学院医学研究科生体情報・機能制御医学専攻社会復帰医学講座リハビリテーション医学分野／名古屋市立大学医学部附属リハビリテーション病院リハビリテーション科，医師）

<抄録>

嚥下障害に特化した家族の介護負担評価ツール「摂食嚥下障害者介護負担調査票（Caregiver Analysis of Reported Experiences with Swallowing Disorders: CARES）」日本語版を開発・検証しましたので、ご紹介いたします。地域在宅ケアを受ける患者の家族介護者 113 名を対象とした横断研究の結果、高い信頼性と妥当性が確認されました。本研究は Dysphagia Research Society 2026 にて NFOSD Michael Donovan Advocacy Award を受賞しました。介護負担は嚥下重症度よりも時間的・経済的資源の不足と強く関連しており、レスパイトケアや経済支援の必要性が示唆されました。研究にご協力いただいた施設の先生方に深謝いたします。

<ご略歴>

名古屋市立大学大学院医学研究科リハビリテーション医学分野教授・附属リハビリテーション病院リハビリ科部長（2026 年 4 月～予定）。東北生活文化大学教授（2023～2026 年）、東北大学特任教授・助教（2021～2023 年）を経て現職。新潟リハビリテーション病院，横浜市立脳卒中神経・脊椎センター等での臨床経験を持つ。

講演4 嚥下調整食の診療報酬収載

藤谷 順子（ふじたに じゅんこ）先生

（国立国際医療センター リハビリテーション科，医師）

<抄録>

嚥下調整食が新たに診療報酬上認められたことは、臨床現場にとって大きな前進です。一方、その請求には、研修受講（抄録記載時点で詳細未定）に加え、栄養密度への配慮、ミールラウンド、試食会、カンファレンスなど多面的な対応が必要です。本講演では、その意義を踏まえ、現場でなお克服すべき課題を整理します。

<ご略歴>

昭和 62 年筑波大学医学専門学群卒

東京大学医学部附属病院，国立療養所東京病院，東京都リハビリテーション病院等を経て国立国際医療センターに入職し，病院が 2025 年 4 月に改組改名して現在にいたる。

リハビリテーション医学会専門医・指導医。日本摂食・嚥下リハビリテーション学会理事。日本嚥下医学会評議員・嚥下相談医